

## 横須賀芸術劇場合唱団定期演奏会vol. 38

2012年3月18日(日)15時開演 よこすか芸術劇場

<出演>

指揮: 梅沢一彦

ソプラノ: 大久保陽子

テノール: 平田孝二

バリトン: 村林徹也

ピアノ: 松本康子

エレクトーン: 江尻弘子

パーカッション: 土屋吉弘

### 1000人を越す聴衆の前で歌う喜びを披露

#### 歌が持っている力を忠実に表現

前半は好評の「美しき日本の歌シリーズ」(※)。今回は作曲、編曲はもちろん、ピアニストとしても活躍している寺嶋陸也氏による編曲で大正時代の童謡の数々をテーマに構成されたもので、作曲者に最大限の敬意を払い、当時の雰囲気と歌が元々持っている味わいを保つように編曲されている。



「赤い鳥小鳥」で始まった演奏には、子どものころを思い出すやさしく繊細なメロディが溢れ、「花嫁人形」、「靴が鳴る」、「赤い靴」では時代背景を思い起こさせる演奏で、全8曲を美しく丁寧に演奏した。

(※)後世に歌い継ぎたい日本の名曲をテーマに沿って選曲、編曲し直した横須賀芸術劇場合唱団のための作品

#### オペラ合唱の名曲を感情豊かに上演

後半は、ピアノ、エレクトーン、パーカッションの編成でイタリアオペラからヴェルディとプッチーニの作品を披露。

「ナブッコ」からは、第1幕“祭壇の聖具がこわれて落ちるといい”と第3幕“行け、わが想いよ、金色の翼に乗って”。特に“行け、わが想いよ、金色の翼に乗って”はイタリア第2の国歌と言われる名曲。演出の動きをこなしながら希望に満ちた演奏となった。「つばめ」では甘い恋のメロディを、「椿姫」では苦しい愛の場面を感情豊かに演奏。ソリストも重厚な歌唱を聴かせた。

アンコールは、再び“行け、わが想いよ、金色の翼に乗って”を叙情豊かに歌い、感動のフィナーレとなった。



ヴェルディ「ナブッコ」



プッチーニ「つばめ」



ヴェルディ「椿姫」

#### 聴衆から満足の声が続々と

- ・前半、後半ともそれぞれの曲の特徴を捉えた演奏であった。
- ・勇気と希望をいただきました。素晴らしい演奏でした。

懇親会でご共演の歌手の方々から労いのお言葉をいただき、合唱団員たちは終始笑顔。約9か月にわたる練習の成果を成功で終わることができ、次回の第九でも素晴らしい演奏となることでしょう。

